

No	カリキュラム名	研修日(13:00受付、13:30～)	研修会場	申込締切日	研修の狙い	受講のゴール	受講対象者	研修カリキュラム
16	製造業の管理会計定石	11/10(金)	ヒクタス本社(秋葉原)	2017/11/3(金)	製造業で規範的に使用されている製造原価や在庫情報にもとづく管理会計の基本的な視点や指標を学習して頂きます。 経営管理系の提案やソリューション開発プロジェクトにも活用したい内容が習得出来ます。 中小企業診断士試験等の受験にも有効性の高い研修講座です。	製造業で規範的に使用されている原価/在庫情報にもとづく管理会計の視点や指標を習得して頂きます。	製造業の基幹系、管理系ソリューションを担当する営業職やシステム技術職の方々	1. “儲かる”とは(企業価値、FCF、ROAで定義する) 2. “儲ける”要素を、フリーキャッシュフロー(FCF)から展開 3. “儲ける”要素を、ROAから展開 4. “儲けるが”のための原価管理の要件例示 5. 製品利益をどの範囲まで評価するか 6. 製品MIXの得失と原価情報活用 7. ロス収支要素と要因可視化 8. 原価差異とロスを構造化し、担当部署責任明確化 9. 操業度差異の可視化と活用 10. 製品価値向上のための現製品の原価管理・ 11. 材料費変動要素可視化 12. 企業価値と現業の目標とを結びつける 13. 製造間接費の製品配賦と製品利益評価 14. 原価シミュレーションの要件 15. その他関連事項 ※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。
17	顧客情報管理の知識	11/14(火)	NJC本社(西新宿5丁目駅)	2017/11/7(火)	グローバル化が進む中で与信管理や顧客情報管理の内容も変化しています。 今日的な視点で顧客情報管理の要件を見直します。	顧客ソリューション向上に有効なデータモデルと取引管理のKPIが設計できる。	顧客情報管理ソリューションのシステム開発技術者	1. マーケティングに有効な引合・見積プロセス情報 2. 見積・受注・販売プロセスのリスクヘッジに有効な与信管理プロセスの要件 3. 販売履歴管理の要件 4. CRMの機能要件 5. その他関連事項 ※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。
19	販売・仕入管理の基礎知識	11/17(金)	NJC本社(西新宿5丁目駅)	2017/11/10(金)	本研修講座は、製品・商品販売ビジネスに係る受注、在庫引当、出荷、請求、回収一連の 販売管理プロセス、発注、在庫管理、検収、支払の仕入管理プロセスの要件定義。 システム開発に係る方に必要な基礎的な業務プロセスの知識を学習して頂く研修コースです。 広範な知識の理解度を確認するための理解度テストが用意されています。	①販売、仕入管理の現状と改革要求分析、業務フロー作成に必要な業務知識を習得して頂きます。 ②販売、仕入業務から財務会計に連携する情報要件を習得して頂きます。 ③販売、仕入管理業務の現状と改革要求の分析事項を調査シートで進める手順を習得して頂きます。 ④販売、仕入管理システムの基礎的なシステム機能要件を学習していただきます。 ⑤販売、仕入管理業務プロセスのパフォーマンスを評価するためのKPI(重要な成果指標)を習得して頂きます。 ⑥グローバル化対応に必要な販売と連携する経理の基礎知識を習得して頂きます。	・販売、仕入管理情報システム企画、開発を担当するSI企業の、営業、システム開発担当者 ・ユーザ企業のシステム企画、開発、運用担当者	1. 販売管理の機能体系 2. 見積プロセス 3. 与信管理 4. 国内受注プロセス 5. 在庫品出荷指示 6. 出荷に対するトレーサビリティ 7. 受注に対応する生産指示 8. メーカーの運送指示 9. 受発注EDI 10. 売上/売掛金計上要件 11. 消費税計算要件 12. 売上返品計上の要件 13. 売上リベート取引要件 14. 自動会計仕訳の機能 15. 売掛金管理、受取手形管理 16. 請求、入金プロセス要件 17. 販売情報の活用 18. KPI活用による定量効果分析 19. 販売管理現状分析のツールの使い方 20. 仕入管理の機能体系 21. 仕入/買掛金計上要件 22. 消費税計算要件 23. 仕入返品計上の要件 24. 仕入リベート取引要件 25. 自動仕訳の機能 26. 買掛金管理、支払手形管理 27. 支払プロセス要件 28. 仕入管理現状分析の仕方 ※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。
20	販売・仕入管理の応用知識	12/1(金)	ヒクタス本社(秋葉原)	2017/11/24(金)	本研修講座は、製品・商品販売ビジネスに係る受注、在庫引当出荷、請求、回収一連の 販売管理プロセスの構築、システム開発に係る方に必要な基礎編に続く上級レベルでの 業務プロセスの知識を学習して頂く研修コースです。	①販売管理の現状と改革要求分析、業務フロー作成に必要な専門的な業務知識を習得して頂きます。 ②販売管理業務の現状と改革要求の分析事項を調査シートで進める手順を習得して頂きます。 ③販売管理システムの専門的なシステム機能要件を学習していただきます。	・販売管理情報システム企画、開発を担当するSI企業の、営業、システム開発担当者 ・ユーザ企業のシステム企画、開発、運用担当者	1. 販売予算の編成 2. 原価見積プロセス 3. 見積情報、失注情報の活用 4. 与信管理上級 5. グローバル取引の基礎知識 6. 収益認識、売上計上基準 7. 消費税計算上級 8. クレジットカードによる売上処理 9. 為替変動による外貨建て売掛金評価 10. ファクタリングによる売掛金の譲渡・回収 11. 電子債権のプロセスと機能 12. 販売管理と内部統制 ※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。
22	グローバル取引の基礎知識	11/28(火)	NJC本社(西新宿5丁目駅)	2017/11/21(火)	産業経済のグローバル化が進む中で、グローバル取引固有の規制や商流・物流・情報システムの連携構築を学習して頂きます。	輸出入取引の商流・物流・決済流、関税制度、税制の基礎的な知識を習得して頂きます。	グローバル取引の最小限の知識が必要なシステム技術者	1. 輸出入取引の商流と用語の知識 2. 輸出入取引の物流と用語の知識 3. 輸出入取引の決済流と用語の知識 4. 関税の知識 5. その他の関連事項 ※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。
新設 23	自習だけでは絶対受からない 日商簿記3級各問別合格ポイント	12/7(木)	ヒクタス本社(秋葉原)	2017/11/30(木)	多くのSHERIに置いて、取得を希望されている日商簿記3級の出題問題別の合格課題を把握し学習方針を確立して頂きます。	出題傾向に沿った問題のハードルを乗り越えて頂きます。	・販売仕入在庫管理など基幹系ソリューション提案または要件定義担当者	日商簿記検定3級検定試験 1. 第1問出題パターンと対策 2. 第2問対策パターンと対策 3. 第3問対策パターンと対策 4. 第4問対策パターンと対策 5. 第5問対策パターンと対策

No	カリキュラム名	研修日(13:00受付、13:30～)	研修会場	申込締切日	研修の狙い	受講のゴール	受講対象者	研修カリキュラム
12	製造原価計算の必須知識(全経工簿検定レベル)	12/11(月)	ヒクタス本社(秋葉原)	2017/12/4(月)	<p>会計は、企業の財政状態と経営成績を理解する経営管理プロセスですが、製造原価計算は、製品単位の利益を明らかにするプロセスです。</p> <p>製品の利益を知らずして製造業の経営は成り立ちません。</p> <p>本講座では、原価計算基準に基づいて、製品の利益を計算する規範的なプロセスを学習します。</p> <p>また教材は最も規範的で難解でない全経工業簿記検定試験1級教材使用して受験にも役立つオードックスな市販テキストとポイントを突いた講師のオリジナルテキストを使用します。</p> <p>中小企業診断士試験等の受験にも有効性の高い研修講座です。</p>	<p>(1)製造原価計算の現状&必須知識に必要な業務体系が確立している</p> <p>(2)製造原価計算のヒヤリングがヒヤリングリストで進められる</p> <p>(3)営業訪問の過程で、提案までに必要な現状&必須知識の項目が把握できている</p> <p>(4)製造原価管理の必須知識に対応する提案製品機能の対応が確立している</p> <p>(5)知識の体系化を図るため、全経工業簿記1級受験を推奨し合格水準獲得を目指す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原価計算業務に携わるユーザ企業の担当者 ・企業の経営管理、経営企画に携わる担当者 ・原価計算システム開発に携わるSI企業のシステム技術者 ・工業簿記、原価計算関連資格試験受験志望者 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 製造原価計算の機能体系 2. 製造原価計算の5つの目的 3. 製造原価計算の全体像 4. 製造原価報告書 5. 材料費計算 6. 労務費計算 7. 外注費計算 8. 直接経費とは 9. 製造間接費計算 10. 個別原価計算 11. 総合原価計算 12. 標準原価計算 13. 原価差異の期末処理 14. 直接原価計算 15. 直接原価計算 16. 製造原価計算と財務会計連携 17. 購買・生産管理と原価計算連携 18. 製造原価計算チェックリストの使い方 19. その他関連事項 <p>※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。</p>
21	物流と物流コスト管理の基礎知識	12/12(火)	ヒクタス本社(秋葉原)	2017/12/5(火)	<p>荷主の視点に立った物流プロセスに対応する基本的な要件と用語知識、原価管理要件を学習して頂きます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物流プロセスの機能構成 ・物流プロセスの業務用語の知識 ・物流プロセス一貫の原価管理要件の基本的な事項を習得して頂きます。 	<p>企業のサプライチェーンの一端としての物流の役割を理解する必要がある営業職、システム技術職</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物流システムの役割と構成 2. 輸送システムの機能と原価要素 3. 保管システムの機能と原価要素 4. 物流のKPI ①上位機能に対する役割のKPI ②物流システム内部の機能的KPI 5. その他関連事項 <p>※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。</p>
04	管理会計の定石とBI活用	12/15(金)	ヒクタス本社(秋葉原)	2017/12/8(金)	<p>企業において必要となる管理会計は企業や業種業態によって多様な要件が求められるとされるが、</p> <p>営利企業であれば必ず必要とされる共通の視点や基本的なKPIがある。</p> <p>本研修では開発期間を短縮するためにも定石となる基本的な要件を学習して、効率の良い開発プロセス推進の基礎的知識を習得していただきます。</p> <p>中小企業診断士試験等の受験にも有効性の高い研修講座です。</p>	<p>多様な要件があると言われる管理会計へのニーズの中でも営利企業であれば共通要件とされる視点や指標を習得する。</p>	<p>経営管理系情報システムの開発担当者</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業価値と構成要素 2. 企業価値を構成するキャッシュフロー方程式とBIでの活用視点 3. 企業価値・キャッシュフロー向上のためのビジネスプロセスの規範 4. ビジネスプロセス別のKPI可視化とBI活用視点 5. 企業価値のKGIとビジネスプロセスのKPIとの関係性体系化 6. BI活用による事業環境の変動要素と企業価値へのインパクト可視化 7. その他関連事項 <p>※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。</p>
03	基幹系取引の財務会計／管理会計への連携要件	1/16(火)	NECソリューションイノベーション新木場センタービル3F-F教室	2018/1/9(火)	<p>今日、会計情報生成の多くは、自動化が進み、一般に自動仕訳といわれている。自動仕訳は1970年代から適用が始まっており、決して新しい仕組みではないが、</p> <p>昨今では、会計基準の国際化が進み収益や費用の認識、測定基準が見直されることが多い。</p> <p>また、管理会計の普及に伴い、制度会計に囚われない管理会計目的の仕訳情報生成が</p> <p>基幹情報システムに要求されるケースも生じてきている。</p> <p>自動仕訳生成は、単に仕訳パターンを作成し、マスに登録すればよい問題ではなく、</p> <p>そのような仕訳を自動生成する基幹情報</p>	<p>本講座では、基幹関連SEを対象に取引類型に対応する自動仕訳の種類の基本的な知見を確立していただくことを目的としている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・販売、購買・仕入、在庫管理等、基幹系システム開発担当システム技術職の方 ・経営管理系システム開発担当システム技術職、コンサルタントの方 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自動仕訳を生成すべき、基幹取引の種類と会計上の認識・測定要件 (1)売上関連 (2)売上控除関連 (3)購買(仕入)関連 (4)棚卸資産・在庫異動、原価計上関連 (5)債権管理関連 (6)債務管理関連 (7)固定資産関連 (8)経費関連 (9)消費税関連 (10)給与関連 (11)収益と費用を同時に対応させる仕訳類型など 2. 連結取引の仕訳類型 3. 管理会計に適用する仕訳類型 4. その他関連事項 <p>※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。</p>
新設 24	自習だけでは絶対受からない 日商簿記2級各問別合格ポイント	1/15(月)	ヒクタス本社(秋葉原)	2018/1/8(月)	<p>多くのSIERに置いて、取得を希望されている日商簿記2級の出題問題別の合格課題を把握し学習方針を確立して頂きます。</p>	<p>出題傾向に沿った問題のハードルを乗り越えて頂きます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・販売、仕入、在庫管理、原価管理など基幹系ソリューション提案または要件定義担当者 	<p>日商簿記検定2級検定試験 商業簿記</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1問から第3問まで出題パターンと対策 工業簿記 1. 第1問から第9問まで出題パターンと対策

No	カリキュラム名	研修日(13:00受付、13:30～)	研修会場	申込締切日	研修の狙い	受講のゴール	受講対象者	研修カリキュラム
10	グループ経営管理の定石	1/19(金)	NECソリューションイバータ新木場センタービル3F-F教室	2018/1/12(金)	中堅以上の企業の大多数がグループ組織で経営を展開する今日において、経営管理の業務プロセスはグループ組織を前提として要求、要件を定義していかなければならないと思われず、企業によって、ビジネスモデルは様々ですが、グループ経営管理には規範的な共通要素があります。 本講では、必須知識としてのグループ経営管理の規範的な要件を学習して頂き、その知識をベースに企業グループや事業グループ毎々の経営管理プロセスや情報システムの構築にあたって頂く知見を初学者に習得して頂きます。	企業によって、ビジネスモデルは様々であるが、多様性の中にも営利企業体としてグループ経営管理に共通な機能要件を修得して頂く。	(1)ソリューションの提案活動に携わるベンダーの営業職、コンサルタント、システム技術職の方 (2)ユーザとして、組織拡大の中におけるグループ経営管理システムの構築にあたる経営企画部門等の方々	1. 経営管理システムにおけるグループ経営組織の定義の仕方 (1)事業セグメント視点でのグループ経営組織定義 (2)業種セグメント視点でのグループ経営組織定義 (3)市場・顧客セグメント視点でのグループ経営組織定義 (4)機能セグメント視点でのグループ経営組織定義 2. 経営管理業績・財政状態に関する開示規則 (1)セグメント開示制度の基礎 (2)セグメント開示に対応する経営管理情報要件定義 3. グループ経営管理の会計制度 (1)連結会計の基礎知識 (2)企業結合会計の知識 (3)移転価格税制の知識 4. カンパニー制会計の機能要件 (1)カンパニー制における組織業績責任の特徴 (2)カンパニー制会計の要件 5. グループシェアード会計の業務要件の基礎知識 (1)グループシェアード会計のシステム事例と機能要件 6. グループキャッシュマネジメントの基礎知識 (1)グループキャッシュマネジメントのねらい
23	消費財卸売業ビジネスプロセスの基礎知識	1/29(月)	ヒクタス本社(秋葉原)	2018/1/22(月)	食品・日用雑貨などの消費財卸売業を担当するにあたって業務プロセスに関する知識を原理的に理解している(なぜ、そのような業務プロセスが存在しているのかを理解)	本研修で理解した基礎知識の上に、自己が体験した顧客の要求事項が応用的な知見として積上げられる。	食品・日用雑貨などの消費財卸売業界や隣接業界を担当するS M、SEなど	1. 卸売業ランギンクに見る消費財卸売業の変遷 2. ビジネスプロセスの機能構成と特徴 3. 主要業務プロセスとシステム化 ①受発注管理 ②ロジスティクス(入出荷・在庫・ロケーション管理) ③売掛・買掛管理 ④利益管理 ⑤営業支援 ※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。
06	ビジネス会計の上級知識(連結会計ベース)	2/2(金)	NECソリューションイバータ新木場センタービル3F-F教室	2018/1/26(金)	本研修講座は、SIベンダーおよびユーザ企業の幅広い業務担当者の方々に、会計の基礎知識から一歩進んで連結決算ベースでの実践的な知識を学習して頂きます。 汎用性を高めるため教材は、大阪商工会議所刊行によるビジネス会計検定試験の公式テキスト2級と講師開発の固有教材を併せて学習して頂きます。 中小企業診断士試験等の受験にも有効性の高い研修講座です。	(1)グループ企業の連結財務諸表より実践的な視点で読めるようになる。 (2)様々な企業活動の成果が、どのような取引の経済効果認識と価値基準で、財務会計に情報として集約されるのかの実践的な体系を習得することができる。 (3)企業価値を向上するための事業活動の成功要因を体系的に認識することができる。 (4)ビジネス会計検定試験や財務会計に関連する各種資格試験等を学習ツールとして職業生活を通じて効率的に学習していく道筋を会得できる。	・SI企業の、営業、ソリューション販売促進、ビジネス業務システム開発担当者 ・ユーザ企業のシステム開発担当者 ・実践的な経理知識が必要とされる民間企業の幅広い職務階層の方々	1. 会計プロセスと連結財務諸表 2. 連結貸借対照表の読み方 3. 連結財務諸表の純資産の構成要素 4. 連結損益計算書の機能と読み方 5. 連結キャッシュ・フロー計算書の特徴 6. 連結財務諸表分析 7. その他関連事項 ※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。
02	営業に必要なIT投資効果分析	2/6(火)	NJC本社(西新宿5丁目駅)	2018/1/30(火)	ICT提案活動においては、顧客における経済的導入効果の説明を求められるケースが多くなっています。 営業職においては、如何に定量効果を明確に訴求するか受注の重要成功要因となるが、これを的確に算定できるプロセスやスキルを持たないケースが散見される。 本研修では、営業職、コンサルタントの方に具備して頂きたいICT投資効果の算定手法を学習していただきます。	(1)企業や顧客の有形・無形資産である情報資産の分類方法や資産価額、費用の算定方法、会計基準、税法規定を修得する。 (2)業務ソフトや関連ICTの支援対象業務プロセスを明確にし、システムが、どの視点で対象業務に、どう貢献しているのかをランク付けし評価する手順を学習する。 (3)業務ソフトやICTの支援業務プロセスの貢献度と、支援業務プロセス自体の重要性から、改修や再構築の優先度をランク付ける手法を学ぶ。以上の知見から、顧客に対して説得力ある経済的導入効果を提案できるようにします。	ソリューションの提案活動に携わる営業職、コンサルタント、システム技術職の方	1. ICT資産およびコストの分析手法 (1)ユーザ企業のICT資産/コストマネジメントの視点 (2)事業者におけるICT資産/コスト評価の必要性 (3)バランストスコアカード理論(BSC)による実践的なICT投資効果評価モデル (4)提案に活用したいICT投資をしない場合の損失評価アプローチ (5)ICTコスト診断と手順 (6)ICTコストマネジメント 2. ソフトウェア資産の会計・税務処理概要 (1)ICTの資産計上か費用計上かの分岐点 (2)自社開発ソフトウェアの会計処理 (3)購買開発ソフトウェアの会計処理 3. ICTの節税要件 4. 工事進行基準と完成基準 5. ICT投資の回収視点と回収CF計算 6. DCF法による投資回収分析の手法 7. その他関連事項 ※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。
07	給与計算の基礎知識	2/13(火)	NJC本社(西新宿5丁目駅)	2018/2/6(火)	企業の人事系システムの中核となる給与計算と関連する所得税・社会保険・労働保険 マイナンバーの取扱いについて評価の高い規範性がある日本能率マネジメントセンター刊行 給与計算実務能力検定2級公式テキストを使用して基礎的な学習して頂きます。	人事系ソリューションの営業職、システム導入担当技術者が、顧客の給与計算業務を理解したうえで提案やインプレメンテーションが実施できるエンドユーザーの業務制度の理解力を獲得して頂きます。	人事系ソリューションの営業職、システム導入担当技術者	市販テキストを使用して学習して頂きます。 1. 給与計算のしくみ 2. 出勤日数、労働時間、休暇、時間外労働の知識 3. 割増賃金の知識 4. 社会保険料、所得税等控除計算の知識 5. 社会保険の手続き 6. 年末調整の知識 7. その他関連知識 ※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。

No	カリキュラム名	研修日(13:00受付、13:30～)	研修会場	申込締切日	研修の狙い	受講のゴール	受講対象者	研修カリキュラム
03	基幹系取引の財務会計／管理会計への連携要件	2/26(月)	NJC本社(西新宿5丁目駅)	2018/2/19(月)	<p>今日、会計情報生成の多くは、自動化が進み、一般に自動仕訳といわれている。自動仕訳は1970年代から適用が始まっており、決して新しい仕組みではないが、</p> <p>昨今では、会計基準の国際化が進み収益や費用の認識、測定基準が見直されることが多い。</p> <p>また、管理会計の普及に伴い、制度会計に因りない管理会計目的の仕訳情報生成が</p> <p>基幹情報システムに要求されるケースも生じてきている。</p> <p>自動仕訳生成は、単に仕訳パターンを作成し、マスタに登録すればよい問題ではなく、</p> <p>そのような仕訳を自動生成する基幹情報システム</p>	<p>本講座では、基幹関連SEを対象に取引類型に対応する自動仕訳の種類の基本的な知見を確立していただくことを目的としている。</p>	<p>・販売・購買・仕入、在庫管理等、基幹システム開発担当システム技術職の方</p> <p>・経営管理システム開発担当システム技術職、コンサルタントの方</p>	<p>1. 自動仕訳を生成すべき、基幹取引の種類と会計上の認識・測定要件</p> <p>(1)売上関連</p> <p>(2)売上控除関連</p> <p>(3)購買(仕入)関連</p> <p>(4)棚卸資産・在庫異動、原価計上関連</p> <p>(5)債権管理関連</p> <p>(6)債務管理関連</p> <p>(7)固定資産関連</p> <p>(8)経費関連</p> <p>(9)消費税関連</p> <p>(10)給与関連</p> <p>(11)収益と費用を同時に対応させる仕訳類型など</p> <p>2. 連結取引の仕訳類型</p> <p>3. 管理会計に適用する仕訳類型</p> <p>4. その他関連事項</p> <p>※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります</p>
09	キャッシュフロー-経営管理の知識	2/27(火)	NECソリューションイノベーション新木場センタービル3F-F教室	2018/2/20(火)	<p>キャッシュフロー計算書は貸借対照表や損益計算書の情報もすべて含んでいる会計情報唯一の統合データベースです。経営面では、従来の会計上の利益偏重経営から、</p> <p>キャッシュフロー獲得指向による経営のスピードアップや資産回転向上を重視する経営スタイルに変革することができる経営革新のKGIでもあります。</p> <p>本研修では国際標準な指標である“企業価値”の測定基盤となるキャッシュフロー計算を理解して頂き、</p> <p>キャッシュフロー指向の業務プロセス設計と情報システム化要件、KPIが設計できるスキルを</p> <p>修得して頂くことを目的とします。</p> <p>中小企業診断士試験等の受験にも有効性の高い研修講座です。</p>	<p>国際標準な指標である“企業価値”の測定基盤となるキャッシュフロー方程式が理解でき、業務設計と情報システム化要件、KPI指標が設計できるスキルを修得して頂く。</p>	<p>職種を問わず、どうもキャッシュフロー計算がわからないという方、</p> <p>利益を主体とした業績管理と何が違うのかよくわからないという方、</p> <p>社内でキャッシュフローをどう説明したらよいかかわからないという方、</p> <p>またキャッシュフロー管理を実践するために、現状のシステムからどのようなデータを収集し、</p> <p>どのような指標を使ったらよいか分らないという方に、1日受講されることをお勧めします。</p>	<p>1. キャッシュフロー計算書の作成目的</p> <p>(1)キャッシュフロー計算書の目的</p> <p>(2)企業価値と一体なフリーキャッシュフロー</p> <p>(3)キャッシュフロー計算書は貸借対照表も損益計算書も含んでいる</p> <p>財務会計情報の統合データベースである。</p> <p>(4)直接法と間接法のちがいと関係理解</p> <p>(5)キャッシュフロー計算書の作成演習</p> <p>2. 経営管理へのキャッシュフロー計算の活用</p> <p>(1)経営に役立つキャッシュフロー方程式(管理会計)と使い方</p> <p>(2)制度会計のキャッシュフロー計算書はなぜ役に立たないのか</p> <p>(3)キャッシュフローの作り方</p> <p>(4)経営の打ち手が増えるキャッシュフロー方程式(事例)</p> <p>(5)キャッシュフローとリードタイム短縮は表裏一体</p> <p>(6)SCMとキャッシュフローは表裏一体</p> <p>(7)キャッシュフローで測るべきIT投資効果</p> <p>(8)キャッシュフロー-経営の2大成功要因</p> <p>(9)キャッシュフロー-分岐点の計算方法</p> <p>(10)キャッシュフロー-指向の予算編成とは</p> <p>(11)資金繰り予定に役立つキャッシュフロー計算</p> <p>(12)利益とキャッシュフローのマトリクスによる業績管理</p> <p>(13)KGIであるキャッシュフローから展開するKPI(事例を中心に)</p>
11	固定資産と減価償却の基礎知識	3/6(火)	NECソリューションイノベーション新木場センタービル3F-F教室	2018/2/27(火)	<p>固定資産と減価償却に関する基礎的な知識を体系的に学習して頂き、</p> <p>固定資産関連のソリューションに対応できる基盤を習得して頂きます。</p>	<p>固定資産の種類と価値の異動、減価償却計算の基礎を身につけて頂きます。</p>	<p>固定資産管理に関連するソリューションのSE、プログラマー、パッケージ販売担当営業要員のの方々</p>	<p>2. 有形固定資産会計</p> <p>3. リース資産会計</p> <p>4. 資産除去債務</p> <p>5. 減損会計</p> <p>6. 減価償却計算</p> <p>7. 主要なIFRSへの対応課題</p> <p>8. その他関連事項</p> <p>※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。</p>
01	SIERに必要な簿記仕訳の知識(日商検定初級レベル)	3/12(月)	ヒクタス本社(秋葉原)	2018/3/5(月)	<p>今日、会計情報システムは、パッケージソフトの適用が100%近く進む中でこの領域でのSEの簿記会計の知識はあまり求められないかも知れません。</p> <p>しかし、販売・仕入など基幹システムSEには、取引情報をどのような複式簿記による仕訳で</p> <p>会計情報システムに連携するかは、基幹システムの開発過程やテスト段階で必須要件となります。</p> <p>本講座では、基幹系SEにこそ必要となる最小限の簿記のスキルをつけて頂きます。</p>	<p>本講座では、基幹系ソリューションに従事するSE、営業職を対象に、取引類型に対応する会計情報連携のための仕訳が生成できるスキル確立を目的としています。</p>	<p>基幹系等システム担当SE、プログラマー、営業職で簿記会計初學者を対象としています。</p>	<p>1. 複式簿記の仕組みを納得するための西洋経済史と簿記一連の記帳手続</p> <p>2. 仕訳を生成すべき基幹系取引の種類と会計上の認識・測定要件</p> <p>①売上関連</p> <p>②売上控除(返品、割戻など)取引関連</p> <p>③購買(仕入)関連取引</p> <p>④棚卸資産・在庫異動、製造原価計上関連取引</p> <p>⑤債権管理関連取引</p> <p>⑥債務管理関連取引</p> <p>⑦固定資産関連取引</p> <p>⑧経費関連取引</p> <p>⑨消費税関連取引</p> <p>⑩給与関連取引</p> <p>⑪収益と費用を同時に対応させる仕訳類型など</p> <p>3. 仕訳帳、勘定元帳、試算表、貸借対照表、損益計算書の作成プロセス</p> <p>4. その他関連事項</p> <p>※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります</p>
新規25	製品別利益可視化に必要な計算方法とは(製品原価計算の基礎知識)	3/16(金)	ヒクタス本社(秋葉原)	2018/3/9(金)	<p>製造業は製品の利益が分からずして経営は成り立ちません。そのための計算体系と情報収集要件を原価計算基準に沿って徹底に学習していただきます。</p>	<p>本講座では、製造業基幹系ソリューションに従事するSEを対象に、製品利益の可視化に必要な情報収集と計算プロセスを取得して頂くことを目的としています。</p>	<p>基幹系等システム担当SE、プログラマー、営業職で簿記会計初學者を対象としています。</p>	<p>1. 製品の利益をどう把握するかの手順</p> <p>2. 直接費と間接費の区分</p> <p>3. 間接費を製品別に把握する方法</p> <p>4. 製品別の変動費と固定費を認識する方法</p> <p>5. 製品別利益を計算するために必要な情報源と情報加工</p>